

東武グループでは、これからの未来を考え、森林と生物多様性保全に取り組んでいます。

◆森林保全

1 社有林での森林保全と利活用の取り組み

森林は国土の保全、水資源の涵養、災害の防止、生物多様性の保全・形成等の様々な機能を持ち、中でもCO₂を吸収する機能は、地球温暖化防止に大きな役割を担っています。

東武鉄道では栃木県、群馬県等に所在する社有林を適切に維持管理しています。このうち栃木県宇都宮市の社有林においては、地元森林組合の協力を得て実施した間伐によるCO₂吸収量について、オフセット・クレジットの認証を取得しています。

取得したクレジットは、東武グループをはじめとした企業・団体活動で生じるCO₂排出量とのオフセットに使われています。



クレジット対象の社有林(栃木県宇都宮市)



間伐実施状況



間伐材の切り出し

オフセット・クレジット対象の社有山林では、間伐のほか下刈り・枝打ちなど適正な管理が引き続き実施されており、この管理により吸収されたCO₂について、経済産業省が所管する国内クレジット制度のもとで、あらためて森林分野の吸収系のプロジェクトとして登録承認され、オフセット・クレジット(J-クレジット)の認証(2023年9月)を得ています。

なお、J-クレジットの売買、流通は従前、相対取引若しくは政府による入札販売に限られていましたが、2023年10月から東京証券取引所において開設された「カーボン・クレジット市場」の取引所を通じた売買がはじまり、当社が認証取得したオフセット・クレジット(J-クレジット/J-VER)に関し、取引所への参加登録を行っています。



浅草駅 改札回り間伐材活用



浅草駅 ホーム間伐材活用(ベンチ)



東武日光駅 待合室間伐材活用(ベンチ)

社有林で切り出された間伐材は、2023年7月から運行開始したスペース Xに合わせた、浅草駅及び東武日光駅での駅リニューアル工事において、当社初の駅のベンチ等の材料として活用しました。

2 とうぶの森 とちぎ中央

東武鉄道では沿線自治体との連携により、環境保全のため様々な取り組みを推進しています。2013年度から栃木県壬生町にある社有林「とうぶの森 とちぎ中央」において、栃木県企業局・壬生町と協同で森林保全活動に取り組んでいます。

活動では壬生町の小学生も参加して、紙芝居を使った里山整備の学習、「もやかき」作業の体験や自然観察会、ドローンによる上空からの里山観察も行っています。身近な里山にたくさんの動植物、昆虫がいることを学ぶ場にもなっています。



森林保全活動に参加されたみなさま



自然観察会



「もやかき」

◆生物多様性保全

1 東武動物公園での種の保存への取り組み

動物園には、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」の役割があります。

東武動物公園(東武レジャー企画)では、地球環境や生態系が崩れていくことを危惧し、来園者に動物を紹介するとともに、自然体系が壊れつつあることを知ってもらうため現状を伝え、未来へ続くサステナブルな地球環境を考えてもらうきっかけにもらえるよう、取り組んでいます。

これ以上、生物を絶滅しない、させないことを最終目標として、域外飼育での生態系保持に取り組んでいます。

同園では、1981年の開園時から生物種の保存(飼育・繁殖)に取り組んでいます。その評価として、動物園で飼育されている動物で、国内で初めて繁殖に成功した動物園に授与される賞を数多く受賞しています。

準絶滅危惧種のミナミシロサイの種の保存を目的として、開園40周年の2021年にオス・メス各1頭、あわせて2頭を迎え入れています。受入れは、培ってきた域外飼育、繁殖の知見を活かし、種の保存に取り組むためのものです。



繁殖賞受賞プレート

種の保存を目的として2021年にオス・メス各1頭を迎え入れた準絶滅危惧種のミナミシロサイ



ミナミシロサイ (メス)「エマ」



ミナミシロサイ (オス)「モラン」

東武動物公園では、この他の動物でも種の保存に取り組んでおり、2023年には、アミメキリン、アメリカンビーバーを始め、多くの動物が誕生しています。

2023年にも多くの動物たちが園内で誕生しています
(左：アミメキリン、右：アメリカンビーバー)



2 日光でのホタルの自然育成への取り組み

東武鉄道では東武鬼怒川線沿線の倉ヶ崎SL花畑において、現在ではあまり見られなくなったホタルの幼虫を、かつて自生していた環境下に放流し、ホタルの自然育成を目指す取り組みにチャレンジしています。

この取り組みでは、東武動物公園の協力を得て、年間を通してホタルが観賞できる同園内の劇場型施設「ほたリウム」において長年ホタルの育成を行っているノウハウを活かし、倉ヶ崎SL花畑を舞台に、ホタルが自然育成するための小川の整備や餌となるタニシやカワナ、産卵のために必要なコケの育成等、環境の整備を行うとともに、「ほたリウム」で育成した日光市内在来のホタルの幼虫を放流し、自然育成を目指しています。



ホタルの自然育成を目指す倉ヶ崎SL花畑